

第8回（2024年4月開講）新・里山講座アルバム

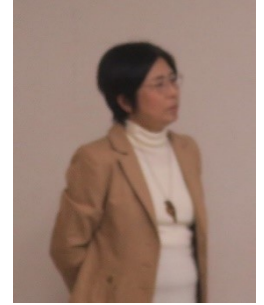
2025年1月25日

第8回新・里山講座は受講生13名の皆さんと2024年4月7日から12月8日まで全15回連続で実施しました。各回の講座と受講生の皆さんの感想を取りまとめアルバムとしました。

第1回4月7日（日） 開講式を大阪市福島区民センター会議室にて開講しました。

1. 開講式、受講ガイダンス

写真左は、主催者を代表しご挨拶された木村進氏、（公社）大阪自然環境保全協会 事務局長。
写真中は、受講ガイダンスを説明の講座運営の責任者、大塚陽一氏。
写真右は、司会のスタッフ大越悦子さん。



2. （公社）大阪自然環境保全協会の活動

本講座を主宰する（公社）大阪自然環境保全協会の活動概要について木村事務局長より説明しました。



<受講生の皆さんのふりかえり>
○活動はよくわかりました。また、新・里山講座だけでなく多くの団体を作り活動されていることを知りました。
○新・里山講座の意義や成り立ちを理解出来ました。
○発足の経緯に興味深く伺いました。40数年来のプロセスは日本社会も経済政治も大きく変貌していただいただけに大変なことが多かったのではと。

3. 受講生の皆さん、スタッフの自己紹介

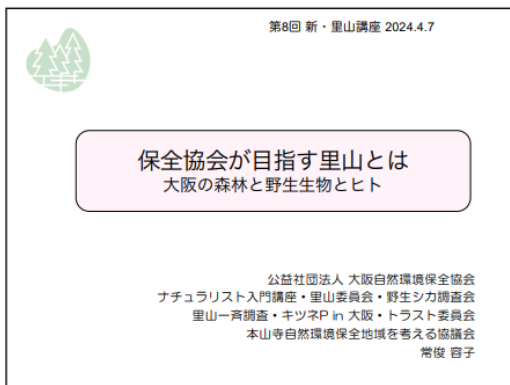
写真は、自己紹介風景。



<受講生の皆さんのふりかえり>
○自然と共存する暮らしに興味ある人たちが多く、これからの学びになるお付き合いが出来るかと期待します。様々な学びを楽しみにしております。
○参加者の皆さんのパワフルな活動内をお聞きしビックリしました。交流の輪を広げて様々な知識を教えてくださいたいです。
○動機や現在の活動内容も受講生、スタッフの方とも多様で今後交流を通して、色々と教えて頂くのが楽しみです。

4. 講義 保全協会の目指す里山とは（講師：常俊容子氏 ナチュラリスト講座企画運営）

写真下、左より講義タイトル、講師の常俊容子。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 里山の歴史や捉え方など勉強になりました。分かり易かったです。ついつい自分の抱えている課題と重ねて考えさせられました。
- 自然を保全するということは、人が手を入れること。また、どのように手を入れるかということについても自らが考えて行かねばならない課題であると理解出来ました。もっと深く学びたいと思うきっかけとなりました。
- 里山について特に考えもなく、ただ昔の自分が遊んでいた環境をイメージしていましたが、再認識しました。

第2回4月16日(火)「森林のしくみ」をオンライン講義で行いました。

1. 講義「森林のしくみ」(講師：藤原宜夫教授 大阪公立大学大学院生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻)

写真下、左より講義タイトル、講師の藤原宜夫氏、スライドの一例。

森林のしくみ

藤原宜夫@大阪公立大学



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 森林のしくみについて、興味深く受講する事ができた。ただ知らない事ばかりなので、自身でも色々調べて知識を身につけたい。
- 前半の講義では、植生遷移という概念や、林縁にあるマントが森林にとって重要であるということ(マントが劣化すると森林系も破壊されるという富士スバルラインでの事例紹介)が、興味深かったです。後半の講義では、里山は人的攪乱によって草原や森林が保全されていくという例として、薪炭林の維持の事例が紹介されましたが、大変勉強になりました。特に薪炭林の維持の手法として「萌芽更新」というやり方があるということも大きな発見でした。
- 二次的自然という言葉に改めて、考えさせられた。また、市民が積極的に関わらなければ保全できないという問題もあることを知った。現代の社会生活が変わっていくことで起こり得る課題について、皆が意識を持つ必要があるが、まずは現状の課題を理解することが重要であると思う。

今日の一言：里山保全の主役は市民

現在、多くの里山保全は、市民の手により進められ、市民活動が重要な役割を果たしている。

第3回4月28日(日)お茶摘み、お茶作り体験を「太子町葉室里山クラブ」さまの受け入れで行いました。

1. 太子町葉室里山クラブの紹介(フィールド、活動について)

クラブ代表の小路公之さんの受け入れご挨拶、事務局の中條月代さんよりご紹介がありました。

<受講生の皆さんのふりかえり>

- 核家族化した現代で老若男女関係なくふれあえる場、本来あるべき姿に素敵だと思いました。生き生きと遊ぶ子供の姿が印象的、こういう遊びをしていたら最近多い発達障害と呼ばれる子供たちがいなくなるのでは？
- ツリーハウスや筏などあり楽園のようだった。子供が遊べるのが良い。ここまで作られたスタッフのご苦労は大変なものだったと思うが、それを引継ぐ若手が不足している。というのも課題に感じる。トイレの処理など日常管理もとても大変だろうと感じる。
- 地主さんとの共生(良い関係)が素晴らしいと思いました。

昔は田、畑、里山の風景だったとのこと、その保全、知識継承（祖父母⇒孫）に取り組んでおられることがよく分かりました。

2. お茶摘み・お茶作り体験



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 小さな若葉を摘み採るのが楽しかったです。私たちの里山倶楽部フィールドにも昔栽培されていたお茶の樹が散在しているので活用したいものです。
- 初めてのお茶摘み体験でしたが、上の部分を摘み取るという単純作業ですが、もくもくと出来てとても楽しかったです。また、その後お茶っ葉を作る作業は思いのほか大変でしたが皆でワイワイ出来てとても楽しかったです。そして、その出来たお茶を頂いたのは、本当に苦みがなく美味しく頂きました。
- 茶葉を摘んでお茶にするまでの手間がよく理解出来た。良い香りを楽しめました。ありがとうございました。

第4回5月3日（祝金）「樹木の調べ方」について紫金山公園にて行いました。

里山管理に樹木の種名を知ることは必要なこととなります。その樹木の種名をどうい手順で調べていくのかを学ぶ内容です。

1. 「樹木の調べ方」講義、講師：土生陽子氏@吉志部神社社務所会議室

写真左より、土生陽子氏、中：受講風景、右：参考図鑑「葉で見わかる樹木」小学館、林将之著



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 葉を観察しての同定法の考え方は大変合理的であり分かり易かった。
樹木の植生を見ることで様々な情報を得られるという話は興味深かった。
- 2時間半弱で調べ方の基本が理解でき、とても良かった。
本を読んで独力で理解するのは困難だし、やる気もない。
- 図鑑の選び方、使い方、詳しく説明して頂きました。
マルバアオダモの実例で羽状複葉の見方の理解深まりました。

2. 樹木の調べ方実習

<下の写真は4本の違った樹を同定する実習風景>



<下の写真はグループでの同定結果を発表、土生先生の講評>



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 難しかったです。3人で迷いながらの結論も1つ不正解です。自信はないけれど近くの木々を1本1本調べて行きます。
- 初めてでなかなか難しかったです。回数をこなして慣れて行きます。
- 実際調べてみると思ったより難しく迷うことも多かったのですが、勉強になりました。

3. 紫金山公園フィールド見学



<受講生の皆さんのふりかえりより>

- 紫金山の由来がコバノミツバツツジであったこと勉強になった。
- 公園のゾーニング（手を入れるか入れないか、どのような森にしたか）、目標、違いが興味深かった。

第5回5月7日（火）「危険予知トレーニング」をオンライン講義で行いました。

1. 講義「里山保全事故事例と安全対策」（講師：大塚陽一氏 事務局）

講師：大塚陽一氏 司会：スタッフ山本操司さん



<受講生の皆さんのふりかえり>

○危険予知トレーニングという言葉を知り、これは確かに里山に行くのに大変重要だと思いました。こういうことは、知識はもちろんのこと、こういう危険に対しての意識があるかないかでも未然に事故は防げるので、これがもっと色んなところで認知されて活用されたらいいなと思いました。

そして、実際に例をやりましたが、1つや2つはすぐにわかるのですが、それ以上になるとかなり考えないと出てこなかったのですが、この「もっと危険はないだろうか」とじっくり考えることが重要ではないかと思いました。じっくり考えることを繰り返すことによって、それが癖になって、どんな時でもすぐに危険回避を考えられるようになるのではないかと思いました。なので、これを続けていき、里山でのことだけでなく、日常でも危険を回避するようになっていければいいなと思いました。

○ゲーム感覚で、と言われた通り、楽しく KYK を学ぶことが出来ました。

ありがとうございました。楽しかったです。

○危険を事前に想定して対策を考えることは、作業を安全に行うためとても有効な事ですね、これから安全作業に心がけます。

今日の一言：事故は無知と無理から起こる

第6回5月14日(火)「紫金山公園の紹介」をオンライン講義で行いました。

1. 講義「紫金山公園の植生」武田義明 紫金山みどりの会会長、神戸大学名誉教授



<受講生の皆さんのふりかえり>

○武田先生、お話をありがとうございました。紫金山公園の成り立ちや植生がよく分かりました。里山の自然も変化してゆくことが理解できました。その変化を記録し時間をかけて調査追跡することが大切ですね。里山の維持管理と並行して記録と調査の継続するために、確かな組織づくりが必要と思いました。

○つい先日、紫金山公園に行ったところだったので、なんとなく見覚えのある木が出てきたので、わかりやすかったです。孤立林なのに、外来種が入ってきたり、害虫でどんどんマツなどが枯れてしまうことを知り、里山の難しさを知ることができました。

○植生遷移の中には、常緑樹、落葉樹、高木、低木、ネザサと食物連鎖のようにせめぎ合いがあることがわかって、興味深かった。結局自然にまかせると、暗い森(=樹木の種類が少ない森)に行きついてしまうので、どういう植生にしたいかを考えた公園設計や里山の計画が、とても大事だということがわかった。

孤立林は、よそからタネが運ばれてこず、枯れてなくなってしまうと、植生が続かないことも初めて知った。昔の集落(里山)は森や林でつながってバランスのとれた植生を維持していたのではないかと思った。

2, 講義「市民運動が公園計画を作った」金谷薫 紫金山みどりの会事務局長、(公社)大阪自然環境保全協会理事



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 高齢化、保存活動の維持化、どの市民活動にも同じ課題があると感じた。多くの人が関心を持ち、楽しく参加できる活動と維持活動の両立の方法を探っていかなければならないと感じた。
- みどりの会の活動が吹田市公園みどり室の計画を変更させたのだと思います。
長年にわたりボランティアが継続されているのは「みんなが楽しい活動をめざそう」という言葉の通りとても楽しい会だからでしょう。私たちの会も楽しい活動を目指して行きます。
- 金谷さんのお話は、市民が公園に関わる例として、素晴らしい成功例だと思いました。
ここまでの事をするには、相当なご苦労があったかと思いますが、何十年も続けることができた一番の理由を聞けば良かったなと思いました。

今日の一言：里山保全の主役は市民。現在、多くの里山保全は、市民の手により進められ、市民活動が重要な役割を果たしていることを、「紫金山みどりの会」での事例により学んだ

第7回5月26日(日)「下草刈り、ロープワーク、道具の手入れ」について紫金山みどりの会の受け入れで紫金山公園にて実施しました。

1. 「下草刈り」実習、講師：岡本利典 紫金山みどりの会スタッフ

写真左より、広場トイレ前の受付、武田会長もお見えになった、中：オリエンテーション進行はスタッフの草竹さん、右：準備運動をします、暑いので日陰で。



講師の岡本さんより道具の説明、草刈り鎌、厚鎌、大鎌、ナタ、剪定ハサミ、草刈り機、砥石など。広場の上の茂みの中で道具を使った実技デモが行われた。

写真下、公園上部の草刈り実習場でのまずは現場確認後の作業前のKYKを行う、

左より1班、2班、3班。



写真下、作業開始時、左より1班、2班、3班。



写真下、作業終了時、左より1班、2班、3班。スッキリしました！



写真下、作業後のKYK、左より1班、2班、3班。

5月26日 危険予知活動表	
作業内容	危険のポイント
1 刈草	1 刈草機
2 草を刈る	2 草の根
3 刈草機を動かす	3 刈草機の刃
4 刈草機を動かす	4 刈草機の刃
5 刈草機を動かす	5 刈草機の刃
6 刈草機を動かす	6 刈草機の刃
7 刈草機を動かす	7 刈草機の刃
8	8
9	9
グループ名	1班

5月26日 危険予知活動表	
作業内容	危険のポイント
1 刈草機を動かす	1 刈草機の刃
2 刈草機を動かす	2 刈草機の刃
3 刈草機を動かす	3 刈草機の刃
4 刈草機を動かす	4 刈草機の刃
5 刈草機を動かす	5 刈草機の刃
6 刈草機を動かす	6 刈草機の刃
7 刈草機を動かす	7 刈草機の刃
8	8
9	9
グループ名	2班

5月26日 危険予知活動表	
作業内容	危険のポイント
1 刈草機を動かす	1 刈草機の刃
2 刈草機を動かす	2 刈草機の刃
3 刈草機を動かす	3 刈草機の刃
4 刈草機を動かす	4 刈草機の刃
5 刈草機を動かす	5 刈草機の刃
6 刈草機を動かす	6 刈草機の刃
7 刈草機を動かす	7 刈草機の刃
8	8
9	9
グループ名	3班

<受講生の皆さんのふりかえり>

- ササが主な刈り草でしたので、比較的楽でした。 両刃の鎌より、ノコギリ鎌の方が刈りやすかったです。コナラやクヌギなどのひこばえが意外にたくさん生えてました。
- 限られた範囲なので、しれていますが広大な範囲だと刈り払い機などの出番となりそうです。
- 2種類の鎌の切れ味の違いは実感出来た。 大鎌では刈る順番で効率が違ってくることも教わり良かった。

2. 「道具の手入れ」実習、講師：岡本利典 紫金山みどりの会スタッフ

写真下、鎌とノコギリをテーマに岡本講師による説明と実技デモ。右は虫よけグッズ「おにやんま君」講師も左肩につけられていた、効果は？



写真下、受講生の皆さんのトライ



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 鎌ときは今まで包丁と同じように刃の方を動かし、砥石を固定して研いでいたので研ぎにくかったですが、きょうの講習の方法でやってみたら、ずっと楽でうまく研げたように思います。
- 「使ったらすぐに手入れしておく」を今後は習慣にしようと思います。
- 刃の研ぎ方は難しかったです。
- 鎌の研ぎ方は知らなかったなので勉強になりました。手入れの重要性も学びました。

3. ロープワーク、講師：岡本利典 紫金山みどりの会スタッフ

左は岡本講師より最初に巻き結びの指導を受けトライ。中・右はその後、巻き結びで草刈り後のササの始末をする。



写真下、色々なロープワークにトライする。

ロープワーク

—メニュー—

はじめに	2
1. 一つ結び	3
2. 足の手結び	3
3. 真結び	4
4. 巻き結び	4
5. ひもの結び	5
6. 引き結び	5
7. もやい結び	6
8. ひもの渡り方	7
9. ロープのしぼり方	8
10. ロープの結び方	8



<受講生の皆さんのふりかえりより>

- 以前から習得したい技術でしたが、繰り返さないとすぐ忘れると痛感しました。ふだんの暮らしの中にも取り入れてマスターしたいと思います。特に重いものを楽に運んだり、固定するのは、非力な女性にこそ便利で必要なものだと思います。
- 何十種類と用途に応じて使えるようになると楽しそうです。
- いくつかの結び方教わり、実際にやって見ることにより出来るようになったのが良かった。

今日の一言：里山保全是下草刈りで始まり下草刈りで終わる。
道具は正しく使い、使った後は手入れを忘れずにしよう。
ロープワークは効果を実感出来れば忘れない。

第8回8月20日(火)「人の暮らしと里山」をオンライン講義で行いました。

1. 講義「人の暮らしと里山」、佐久間大輔氏(大阪市立自然史博物館 学芸課長)



講師の佐久間大輔氏



司会の大越スタッフ

<受講生の皆さんのふりかえり>

- 本当に目からウロコ!の講座でした。里山、自然と経済、利益をどう結びつけるのかが大きな課題と感じました。ボランティア活動に参加していても高齢化は進んでおり、この先の継続、維持という視点からも魅力ある里山づくりが課題ですね。
- 佐久間大輔先生、お忙しい中ありがとうございました。
 - ・里山はその地域の人々の限られた生活拠点なのかと思っていましたが、京都や大坂の大消費地とつながり、盛んに特産物を作り運んでいたのが分かりました。暮らしは厳しかったかもしれませんが、たくましく生きる力強さを感じました。
 - ・「自然を失うことは文化を失うこと」に寂しい気持ちになりました。何とかしなければ・・・
 - ・大阪市立自然史博物館に行ってみようと思いました。
- 久しぶりということもあり里山からすっかり頭が離れていたのですが、里山といえば、自然にできあがったものだから保全しないと!!みたいな考えが一般的であり、私もそういうものだと決めつけていましたが、佐久間先生のお話を聴いて、そうではないということがよくわかり、久しぶりに目が覚めた感じです!!

今日の一言：里山は自給自足だけではなく、資源を活かし経済的に確立していた!
自然保護、ボランティア活動ではなく生活や経済と結びついたものなければ維持出来ない

第9回10月6日(日)「人工林間伐」を「富田林の自然を守る会」さまの受け入れで奥の谷にて行いました。

1. オリエンテーション

左：基地のテントでオリエンテーション 中：挨拶される田淵武夫氏（前会長）

右：準備運動



2. フィールド見学（引率&講師：田淵武夫氏）

「富田林の自然を守る会」さまのホームページは[富田林の自然を守る会 \(xrea.com\)](http://xrea.com) ご参照ください。
竹林エリア、手入れしている林と管理外の林などを回る、見晴台からはPLタワーも望める。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 管理が出来ている場所とそうでない場所の差が大きく先々どうなるのか？
地主さんの考え方で森が変わってくるのを実感した。
- 整備している所としていない所の違いが一目瞭然だった。
ボランティアで整備するというのを拒否する所有者の方がいることにビックリした！
里山つくりの大変さが良く理解出来た。
- 富田林の自然を守る会のメンバーの方々が里山を熱心に整備されており、水も電気もない中で、よくやっておられると感心した。

3. 人工林間伐実習（講師：上角敦彦会長）

<富田林の自然を守る会様のスタッフによる間伐デモ>

左：間伐実習場 中：上角敦彦会長より間伐材と切り倒す方向の説明 中：会の河崎スタッフによる受け口を切り出す作業説明



左：かかり木にならずに倒れる 中：間伐材の切り口 右：倒した木を玉切りする



<受講生の皆さんによる間伐>

左：草竹スタッフより作業開始指示 中：まずはKYKにより安全確認 右：皆でKYK確認



危険の科にト	種別	種別	種別
1 倒木	2 倒木	3 倒木	4 倒木
5 倒木	6 倒木	7 倒木	8 倒木
9 倒木	10 倒木	11 倒木	12 倒木
13 倒木	14 倒木	15 倒木	16 倒木
17 倒木	18 倒木	19 倒木	20 倒木
21 倒木	22 倒木	23 倒木	24 倒木
25 倒木	26 倒木	27 倒木	28 倒木
29 倒木	30 倒木	31 倒木	32 倒木
33 倒木	34 倒木	35 倒木	36 倒木
37 倒木	38 倒木	39 倒木	40 倒木
41 倒木	42 倒木	43 倒木	44 倒木
45 倒木	46 倒木	47 倒木	48 倒木
49 倒木	50 倒木	51 倒木	52 倒木
53 倒木	54 倒木	55 倒木	56 倒木
57 倒木	58 倒木	59 倒木	60 倒木
61 倒木	62 倒木	63 倒木	64 倒木
65 倒木	66 倒木	67 倒木	68 倒木
69 倒木	70 倒木	71 倒木	72 倒木
73 倒木	74 倒木	75 倒木	76 倒木
77 倒木	78 倒木	79 倒木	80 倒木
81 倒木	82 倒木	83 倒木	84 倒木
85 倒木	86 倒木	87 倒木	88 倒木
89 倒木	90 倒木	91 倒木	92 倒木
93 倒木	94 倒木	95 倒木	96 倒木
97 倒木	98 倒木	99 倒木	100 倒木

左・中・右：受け口は斜め下に切り出すため、難しいが受講生の皆さん交代して作業する



左・中：受け口定規でチェック後、追い口を切り出す、かかり木にならずに倒れる 右：玉切り作業 下段：枝払い



間伐材はヒノキ。
 ヒノキ科ヒノキ属
 常緑高木、雌雄同株、
 鱗状葉。樹皮を剥がすと
 良い香りがする、高級建築材、
 装飾材として有用。

<玉切り、枝払い後に集積場に運搬、皮むき作業をする>

左・中：受講生の皆さんによる皮むき作業 右：皮むき作業後、集積場の所定の位置に立てかける



<受講生の皆さんのふりかえり>

- ノコギリを使っていた作業は大変でしたが、とっても楽しかったです。木の香りにも癒されました。皮むきは初めての作業だったのですが、するすると剥けるのが楽しかった。
- チェーンソーでの実習は経験有りでしたが、手ノコでの作業はなかなかハードでした。むきまで経験出来て楽しかったです。
- 皆さん楽しくやりました。周りにはあんまり見れていない。

<基地にもどり、道具返却、KYKふりかえり、ふりかえりシート記入、感想一言>

作業が終わるとKYKのふりかえりを忘れずしておく（実際に作業をして新たな危険を感じたこと、ヒヤリハットしたことを出し合い共有し安全に対する感性を高める）

この日は9月22日実施予定が雨天で順延した日でした。順延したことで気温も少し低く、なにより雲一つない快晴に恵まれました。

左：基地でのミーティング 中：上角会長（右）会のスタッフの河崎さんを囲みふりかえりをする



今日の一言：間伐の基本（受け口、追い口、ツル、玉切り、枝払い）を実習で学ぶ。

第10回10月20日（日）「竹林間伐」を「妙見里山倶楽部」さまの受け入れで高代寺山にて行いました。

1. オリエンテーション

「妙見里山倶楽部」様のホームページは[妙見里山倶楽部 | 里山, 森林ボランティア, 妙見 | 大阪府](#) ご参照ください。急登を約30分歩いて里山班基地に到着。井上登紀夫会長のご挨拶、妙見里山倶楽部のご紹介などを受ける。その後、今日のプログラムをお話されて早速講義に入る。

左：棚田班の基地



中：里山班基地での集合



右：井上登紀夫会長



2. 講義「竹の話し」「竹切り作業」 講師：高田俊弘氏 (妙見里山倶楽部 事務局長)

講義「竹の話し」「竹切り作業」は高田俊弘氏より受ける。写真下参照。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- マダケ、モウソウダケ、ハチクの違いが興味深かった。
- 竹のこと、知っているようで知らないこと沢山あると思った。
- 大型3種の違いやタケノコ、竹細工、釜道具といった活用法の特徴も学べたことが有意義だった。

3. 竹間伐実習 (講師：妙見里山倶楽部のスタッフの皆さま)

<実習場に出向き倶楽部のスタッフによる竹間伐デモ>

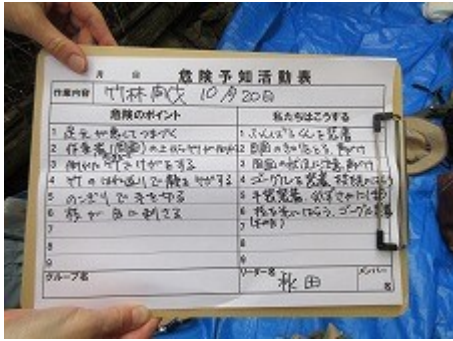
左・中：基地より実習場に向かう 右：倶楽部のスタッフによる竹間伐デモ

人工林間伐実習とは異なり、比較的簡単に切れるが作業中や周りの人に当たらないように倒れる位置に注意を要す。



<受講生の皆さんによる竹間伐実習>

左：実習前に安全を確認するためにKYKを行う、その後3班に分かれる 中・右、および下段：受講生の皆さんによる実習。



写真下右：間伐し玉切りした竹を集積場に運ぶ。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 楽しいけれど疲れた!! 疲れたけど楽しい!! 重労働だと実感しました。
- 前回の奥の谷でノコギリは使ったけれど、今回は竹だったので前回よりも切りやすいと思った。そして、作業時間も沢山あったので5~6本は切ることが出来て楽しかった! また、竹を移動する作業は重いし長いし大変だった。
- 比較的簡単に伐採出来たので、気がつくと夢中で作業に没頭していた。間伐により空間が広がるという達成感に満足

5. フィールド見学など

高代寺の山裾が活動フィールドとなっており、竹林が広がっている。涅槃サクラ、可憐な花や大きなキノコも見られた。見晴らし広場からは下界がよく望めた。



高代寺にはイノシシ捕獲用の罠にかかったツキノワグマが飼育されている。



昼食時に豚汁とコーヒーをご馳走になる。



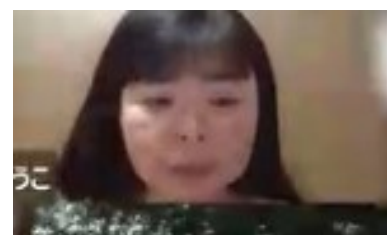
<受講生の皆さんによるふりかえり>

- とても丁寧にきれいに整備されていると思った（今まで行った中でも一番！）。豚汁もコーヒーもご馳走になり、身体も温まりました。
- 妙見里山倶楽部の方々には本当にお世話になりました。マンツーマンで教えて頂き感謝です。里山を守ること少しだけ体験出来ました。
- 30年近く活動されており耕作放棄地でビオトープや畑をされていることが分かった。まだ放棄地が多くあり活動が広がると良いと思った。

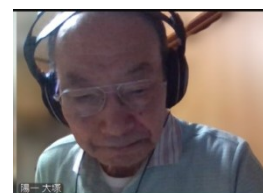
今日の一言：竹間伐の基本（受け口、追い口、切り倒し、玉切り、枝払い）を実習で学ぶ。管理されているのが竹林、されていないのが藪。

第11回10月29日（火）「毎木調査の必要性と方法」をオンライン講義で行いました。

1. 講義「毎木調査の必要性と方法」、土生陽子氏（木象岨 こぼみつ亭代表）



講師の土生陽子氏



司会の大塚スタッフ

<受講生の皆さんのふりかえり>

○植物調査の事を初めて聞いたので、何もかもわからないことだらけでしたが、里山管理の為にはとても重要なことであるということが理解でき、大変良かったと思います。ただ、とても大変な作業なので、必ず全員がこれをやる意味をちゃんと理解した上でやらないと、ただしんどいだけの作業となるかもしれないので、植物調査の説明を丁寧にすることも大事だと思いました。また、作業が慣れるまではとても難しいだろうと思いました特に平面図と断面図を書くところは、断面図をどちらから見ているのかというのが慣れないとこんがらがってしまいそうだなと思いました。次回実習で実際にやるということですが、楽しみでもあり、不安でもありますが、せっかくの機会ですので頑張っってチャレンジしたいと思います!!

○里山の管理について今まで安易に考えており、今回の講義で様々な調査・資料作成・管計画等を作成し、目標を持って作業を進めないといけないと感じました。

私の関わっているのは耕作放棄地(畑として利用)、竹の間伐(クヌギ等の植林)等を行っておりますが先の長いことなので無理せず続けていきたいと思います。

今日の一言:

里山管理(P計画・D実施・Cチェック・Aアクション)を客観的にするためには、数値化・図面化・写真などが求められる。

第12回11月4日(祝月)「毎木調査と図面化」を「五月山グリーンエコ」さま[五月山グリーンエコ](#)の受入れで五月山緑地にて行いました。

1. オリエンテーション

左: 緑のセンター裏の広場でオリエンテーション

中左: 五月山グリーンエコ代表の中川勝弘氏より受入れご挨拶。中右: 毎木調査指導の土生陽子氏

右: 大越スタッフの掛け声で準備体操をほぐし、ヘルメット、名札、スパッツ装着しフィールド見学に出発。

フィールド見学同行の菅原スタッフを除いたスタッフは調査地の準備のため、調査道具を持ち直接調査地へ向かいました。



2. 五月山フィールド見学(中川勝弘氏引率により炭焼き小屋コースに行く)





コウヤボウキも咲いていた



<受講生の皆さんのふりかえり>

- シカやイノシシの被害があること、台風の影響で普段から苦労されて活動されていることが分かった。炭焼きコースは市民活動を通じて設けられたそうで感心した。
- シカ害をなんとかしないと整備のやりがいがない。樹木とヒトも高齢化するという言葉が印象に残りました。
- 行くまでが大変。かなりきつい道のりでしたが・・・他の皆さまは平気なんですか？

3. 毎木調査 (土生陽子氏指導のもと行う)

調査地到着後、調査地整備、スタッフによるデモの後、実習に入る前に安全確認のKYKを行う。



11月4日 危険予知活動表	
作業内容	毎木調査
危険のポイント	私たちはこうする
1 足元が暗い	1 足元には必ずライト
2 樹木に人がぶつかる	2 目印を付けておく
3 杖に注意(B子)	3 杖の先端は必ず
4 エアロ乾燥機(枝葉)	4 必ず着脱する
5 11月の木に葉が落ち	5 注意深く歩く
6 足元下に落ちやすい	6 注意深く歩く
7	7
8	8
9	9
グループ名	リーダー名



<調査結果>

【 毎木調査票① 】

【調査地データ】	
NO.	
年月日	2024.11.4
調査地	五月山
群落	コナラ
斜面方位	南南西 南20° 西
斜面傾斜	17°
調査面積	5 m × 5m
地形	山頂・ <u>尾根</u> ・斜面(上・中・下)・平地・谷
風当たり	強・ <u>中</u> ・弱
日当たり	陽・ <u>半陰</u> ・陰
土湿	乾・ <u>適</u> ・湿・多湿
調査者	



<受講生の皆さんのふりかえり>

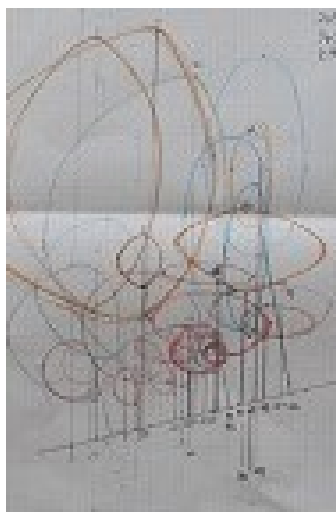
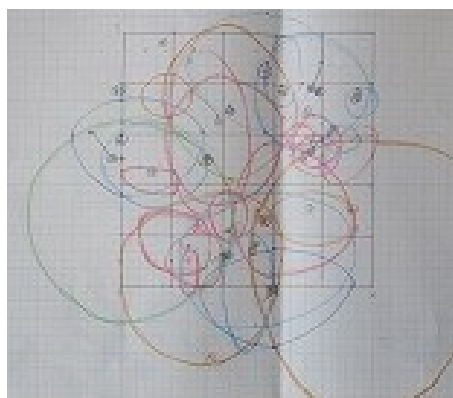
- 毎木調査はzoom 講座で勉強したときは、とても難しいと思っていましたが、実際にやってみると上を見たり図ったりが大変ではありましたが、慣れてくると夢中になりチームになって図るので楽しかったです。
- 5m四方のサイズにしてもらっていたが、10数本しか計測できなかった。
枝張りの見当の付け方に時間が掛かった。枝が集まりあっており確認しにくかった。
土地が傾斜しているので正確さは危うい。 枯れている木の確認でうっかり生木と間違えた。
- データ入力や樹高測定、枝張り、座標など各作業を一通り体験したが、初めての経験で十分楽しめた。
但し、樹高測定は見通しが悪い場合は難しいことを実感。

4. 図面化

調査地の調査データを可視化するため図面化（平面図と断面図）します。会場は緑のセンター2階会議室です
1班は断面図、2班は平面図を担当することにしました。



図面の完成図、左：平面図。右：断面図。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- どの樹冠がどの幹の番号に対応するのが分かりにくく、読み解くのに苦労しそうでした。
- 傾いている木の書き方が難しかった。測量したデータが活用されて図面化されるのが面白かった
- 作業そのものは難しくなかったが、モデル図としてきれいな楕円を表現することが難しく、仕上がりの見た目が残念だった。色分けをして作図することで植生のイメージがつかみやすかった。

今日のひとこと

○調査データを図面化すると調査地の様子が目に見えて分かる！

第13回11月24日(日)「森づくり企画と森づくり」を「五月山グリーンエコー」さまの受入れで五月山緑地にて行いました。

1. オリエンテーション

緑のセンター2階会議室で行う。

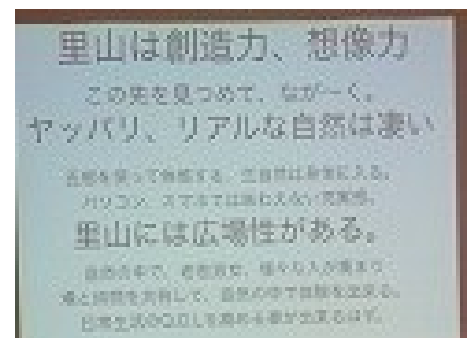
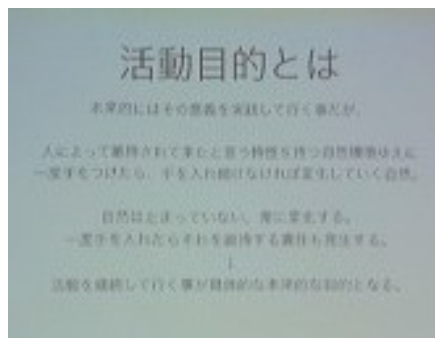
左：進行係の八里スタッフ、中：五月山グリーンエコー代表の中川勝弘氏より受入れご挨拶。

右：会場風景



2. 講義「五月山グリーンエコーの活動」(中川勝弘氏)

「いのち輝き 響きあう 暮らしのそばの 森づくり 町づくり」を目指して



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 企業や行政、教育の現場でもっと里山について関心を持たせるべきだと感じました。
- 自治体、企業、地主などの方々から活動を理解し協力を得られておられ有効に利用されているのが、よく分かりました。継続は力なりをつくづく思いました。
- 里山の活動を長年続けておられる事に感心しました。
「自然の価値を知り、自然を楽しむ」「意識を高める」活動と言われた言葉が心に残りました。

3. 森づくり企画

毎木調査データ、平面図、断面図、毎木調査まとめ森づくり企画シートなどに基づき、2班に別れて森づくり企画を話し合い、結果を発表。最後に2班の結果をまとめ全体の森づくりとしました。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 宿題をやっておいて良かったです。青と紫の区別がつきにくい。どの樹冠がどの番号かが分かりにくい等、改善のポイントが分かりました。
- 2班とも同様にモチツツジを残して山に登られる方々のお目にお花が歓迎する景観にしたいと一致しました。周りの木は思い切って光が入るように切ろうと計画しました。
- 目標テーマをもって森づくり企画するうえで、前回の毎木調査データが実に有効活用される事が、実感出来た。

4. 森づくり実習

左：安全確認のKYK実施後に切る木を確認。 中：切る木を確認し作業に入る 右：間伐後の切断面



左・中：間伐した木を取り出す 右：間伐した木の枝払い、玉切り



森づくり（間伐作業と間伐材の整理）を進めて行く、森が明るくなってきた



森づくり完成！！各班記念写真



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 机上で考えたことを実践すると思った以上に森が明るくなりビックリしました。近くに住んでいるので結果を見るのが楽しみです。
- 現地の作業は危ない時もありましたが、参加者の意思通りの作業が無事に出来良かったです。
- 自分も含めて皆さん木を切るのがどんどん上手になり、要領も分かってきてとてもスムーズに作業出来たと思います。そんなに切る木はないのではと思っていましたが、どんどん切って明るくなって日が当たる状態になったのを見て、まったく違う景色になりましたので、今後ここがどうなっていくのが楽しみです。

今日のひとこと

○里山保全の活動とは、結局やり続けることが活動の性格上、目的なのだと思感させられた！

第14回12月1日(日)「竹炭焼き体験」を「富田林の自然を守る会」さまの受け入れて奥の谷にて行いました。

1. オリエンテーション 炭焼班基地の枇杷庵にてオリエンテーションを行う

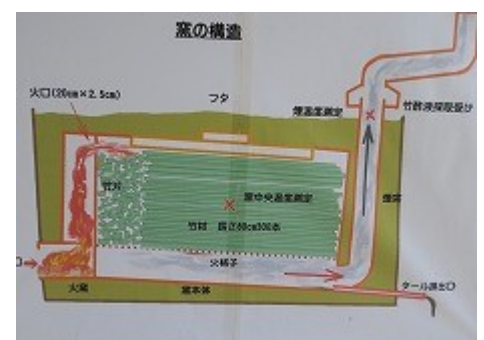
左：富田林の自然を守る会 上角会長のご挨拶 中：炭焼班柴山班長のご挨拶

右：進行係の草竹スタッフ



2. 講義「奥の谷 竹炭焼き体験手順」炭焼班 米田彰一氏

左：枇杷庵にての講義風景 中：米田講師 右：窯の構造図



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 燃料の変遷で竹林が手の付けられない状況になっていることが分かった。
- 歴史から炭の化学までコンパクトにまとめられていて、分かり易かったです。
- 炭化させると炭になる。酸素があると灰になる。

3. 奥の谷竹林フィールド、粉碎機稼働見学 (案内：炭焼班 柴山班長)

竹林はモウソウチク、竹林見学と粉碎機の稼働を見学し、粉碎後のチップを頂く。

左：竹林フィールド 右：粉碎機 右：炭用に(直径10cm以上)伐採された竹を基地まで運ぶ。



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 竹林の管理は継続的に行わないといけないので大変そうです。
- 竹林間伐の考え方を教えてもらったり、実際の間伐後のエリアを実際に見ることで勉強になった。活動の様子を心底楽しそうに語っておられたのが印象的だった。
- 春のお茶摘みと同じく個人的に一番楽しみにしていました。最終回ということもあり他の参加者さんとのやりとりも和気あいあいとスムーズに活動に参加することが出来ました。

4. 竹炭焼き体験 (デモ・指導：竹炭焼班の皆さん)

炭焼班の皆さんによる窯に入れる竹材の加工をデモされる。

持ち込まれた竹を竹炭用に80cmの長さに竹切断、切断した竹を4つに割、最後に4つに割った竹の節落としを行う。デモのあと受講生の皆さんによりKYKを行った後、交代で作業する。

作業の安全確認<左：持ち運ばれた炭焼用竹材 中・右安全確認のKYK>



作業内容	竹材の断り(竹切)	節落とし
1	安全確認(KYK)	1 作業開始前の安全確認
2	竹材の断り(竹切)	2 安全確認
3	竹材の断り(竹切)	3 安全確認
4	竹材の断り(竹切)	4 安全確認
5	竹材の断り(竹切)	5 安全確認
6	竹材の断り(竹切)	6 安全確認
7	竹材の断り(竹切)	7 安全確認
8		8
9		9
10		10

切断作業<左：切断用架台 中：切断作業 右：電動ノコギリ「レンプロソー」も体験する>



4つ割り作業<写真下、左：台と4つ割り用竹割り器 中：掛矢 右：4つ割り作業①>

台に竹割り器を置きその上に竹を乗せ竹の上を掛矢で打つ。竹の先が台に届いたら上下をひっくり返す。竹を両手で持って台の上で落とす。竹割り器が、自重で落下し竹を割っていく



4つ割り作業 注意（竹割り器を上にして直接竹割り器を掛矢で打つと竹割り器が破損する）。



節落とし作業<専用のナタで節を落とす、これを300本作る>



窯に装填と土かぶせ

作業前に手順を説明、約300本の竹を加工出来たら、これを装填すると本来は水分が多いため次回用にしますが、実習ということで加工していた竹を窯に装填し土かぶせをします。竹の長さは窯に入れやすい最長の80cm、空間が出来るので小さな竹を挿入します。空間があれば酸素が入り燃焼の恐れがあるので出来るだけ空間をなくし蓋をします。



火入れ、送風、薪の補充

左：窯に竹を装填し土をかぶせた後に火入れする。 中：火が回るように送風機により送風する。

右:燃焼状況により煙の色が変わる。



窯の密閉と窯出し

左：密閉は炭が出来た後（約12時間）に行うが、実習ということで体験する。

中・右：窯のもう一基より焼けた炭焼きを取り出す



<受講生の皆さんのふりかえり>

- 竹切、竹割、節落とし等、工程を追って体験し分かり易かった。窯入れ火入れはとても手間のかかる仕事と理解出来た。
- 窯の構造なども説明して頂き、また体験することにより後に残る経験となった。
- 購入したり道の駅でも手にする竹炭がどのように出来るか？一人では出来ない貴重な体験となりました。

その他

左：昼休みにはミツバチの巣箱を見学

中・右：巣箱には多くのミツバチが群れる



左：お地藏さん

中：ハンモック

右：ピザ窯も



第15回12月8日(日)「修了式」を旭区民センターにて行いました。

最初に受講生の皆さんに「講座全般に関するアンケート」を頂くと共に所感を述べて頂きました。

左：会場の旭区民センター外観

中：受講生の皆さん

右：司会の菅原スタッフ



その後、事務局より講座修了後の活動について、講座修了生の会、里山活動情報発信する「シャシャンボの会」のご案内、保全協会ご入会のお誘い、新・里山講座スタッフへのお誘い、今後の活動の参考に「里山保全活動グループ」をご紹介しました。

事前に講座全般へのアンケートをお願いしており、この結果を下表にとりまとめました。

第8回新・里山講座全般へのアンケート結果

I 講座に期待されたことへの結果は如何でしたか？期待通りであったこと、なかったこと等

- 色んな里山保全の活動地に行けて良かったです。道具の使用方法やKYKなど基礎を学びました。実際の活動では刈り払い機やチェーンソーを使用するので応用編みたいなのもあって良かった。
- 実習については、なんとなく理解出来て良かったと思います。
五月山での毎木調査、森づくり体験実習は参加者が検討し、実施したのが良かったと思います。
里山活動をしている各グループの活動内容が分かって良かった。
- 里山に関する歴史的経緯や現在、或いは将来の課題について座学や実地研修を通じて学ぶことが出来、有意義かつ期待通りであった。茶葉の摘み方や炒りかた、ロープワークや竹伐採や炭づくり等、実地研修で体感出来たことは貴重な経験だった。
- 元々里山への憧れや関心があり、保全活動に興味があったものの、現在の里山にどんな問題がありどのような活動が必要なのか、知らなかったため座学と実践を通じて一端を知れたのは、大変有意義だった。
- 「里山の勉強+自然の中でリラックス+楽しい体験」を期待して参加した。
結果、とても詳しく教えて頂きとても勉強になりました。また、体験したことのないことも沢山体験出来ました。ただ、自分の体力のなさを実感しましたので、里山活動をするには、まず体力をつけたいと思います。

II 講座内容について気付いたことをお聞かせください。

講座開催時期(1月～6月)、講座費用(20,000円)、講師陣、オンライン講座、実習地

- 開催時期、頻度とも適当でした。夏の時期はオンライン講座を中心にして頂き安全にも配慮されていました。オンラインの講義は著名な方もおられ、また講座内容がどれも興味深いものでした。
- オンライン講座は在宅で受講出来て良かったです。
- 良心的な費用だと思います。ありがたく思います。
- オンラインはどうしても～しながら(夜間のため)が多く、集中しづらかったです。
- 夜間のオンライン講座は受講しやすかった。費用、期間も特に不満を持たなかった。
雨天順延の際の日程変更が既に予定のある日に変更となり、受講出来なかったのが個人的には残念。

III 講座ニュースについて、良かった点、改善すべき点は如何がでしたか？

- 講座ニュースはふりかえりと他の参加者の意見も聞けて良かったです。
- 講座ニュースは丁寧な内容と写真で紹介して頂き満足。
- いつも詳細を報告して頂き感謝いたします。これを毎回作成して頂いていると思うと、申し訳ない気持ちになりますので、もう少しラフな感じでもいいのかなと思いました。
- 皆さんの意見が聞けて自身で気づけなかった点も分かりました。
- 毎回丁寧にニュースを作成して頂き、活動記録として自分たちのメンバーにも報告する資料として活用させて頂き

ました。

Ⅳ 講座スタッフの対応について、良かった点、改善すべき点は如何がでしたか？

- 毎回、事前連絡や現地での運営に尽力頂き大変感謝しております。
スタッフの皆さまの知識の深さにも、活動中に多々教えて頂きました。
フレンドリーで気さくな方ばかりで実習に参加しやすく楽しめました。
- 皆さまフレンドリーで前向き、自然を愛する心が伝わる素敵なスタッフさんたちでした。
- 皆さん、お忙しい中、準備などご尽力頂いていたかと思えます。
- 参加する側に見える部分は氷山の一角、様々な準備や当日の配慮、事後の片付けやまとめに、多くの作業や話し合いがあったと思います。小さな質問にも丁寧に答えて頂き満足しております。
- 本当にお世話になりました。感謝です。いつもニコニコしながらも、見えない所でも私たちをサポートして下さいと思います。スタッフの感想もお聞きしたいと思います。

Ⅴ これからの活動についてどのようにしたいと思っていますか？

- ・自然のことに関わりたいので大阪自然環境保全協会の会員になりたい：
入会者、家族会員を含め9名（既入会者数名でほとんどの修了生の方が加入されました）
- ・もっと里山のことに勉強・体験したいので新・里山講座のスタッフになりたい：なし
- ・新・里山講座で得られたことを里山保全グループで活かしたい：7名
- ・他の講座でもっと勉強して知識・技術をグレードアップしたい：4名
- ・現在活動しているグループで継続して活動したい：4名
- ・学んだことを活かして自分の生活を楽しみたい：5名

修了式

木村理事よりご挨拶頂き修了要件を満たされた、100%出席は2名、80%以上出席は10名、計12名に修了証を授与されました。

<集合写真>



今日のひとこと：里山管理の知識と技術を習得する講座、長期間お疲れさまでした。
修了おめでとうございます！ 今が活動の新たなスタート地点です。

以上